

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019/7/6
所属学部・ 研究科・学府	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学科

1. 留学先について

留学先大学名	RMIT大学							
留学先所属学部等	Global, Urban and Social Studies							
留学期間	出発日	2018/7/6	入学日	2018/7/9	修了日	2018/12/17	帰国日	2018/12/28
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート		<input type="checkbox"/> 民間アパート		その他()			
	通学時間	10分				On campus		
	通学方法	歩き/トラム						
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室	() 人部屋		その他()			
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	その他()	
食事	自炊	30 %	学食	%	外食	70 %	その他	() %
保険	海外旅行保険(名称)	ジェイアイ傷害火災保険						
	派遣先大学指定の保険(名称)	OSHC(Medibank)					<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入	
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄ ゴールドコースト(飛行機) ⇄ メルボルン(飛行機)							

2. 留学にかかった費用について

総費用	150万 円								
出どころ									
自費	<input type="radio"/>	貯金	20万 円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
援助	<input type="radio"/>	両親	70万 円	<input type="radio"/>	家族・親戚	60万 円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金		JASSO	円	<input type="checkbox"/>	その他名称()		<input type="checkbox"/>		円
その他		千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/>	その他()		<input type="checkbox"/>		円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	10万 円		その他 ()	円
留学中		海外送金	<input type="radio"/>	キャッシング	<input type="radio"/>	その他 ()

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	クレジットカード
住居にかかった費用	入居時にクレジットカードで一括払い
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			14万	円
海外旅行保険			11万	円
OSSMA			1万6千	円
査証・在留許可証	AUD	575	5万	円
住居	AUD	9,200	80万	円
食費			13万	円
通学に要する交通費			3万	円
教科書、教材費			1万	円
その他大学に支払った経費			1万	円
光熱費			家賃に含まれる	円
その他 (ワクチン)			1万	円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1 Introduction to Australian Society	正規	12	<input type="radio"/>	有	無
2 Spanish 1	正規	12	<input type="radio"/>	有	無
3 Intercultural Communication	正規	12	<input type="radio"/>	有	無
4				有	無
5 現在単位互換認定申請中				有	無

6				有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

セミスター開始前に、受講予定授業を提出するが、現地で追加、変更可能。大学のオンラインページにて登録。千葉大とほぼ同じ。

3-2. 授業内容、方法に関して

レクチャーとチュートリアルがあり、レクチャーは大講義室で大人数で行う。レクチャーは10-15人ほどの小人数で、議論やプレゼンを行う。授業時間に関しても、週に3時間授業が1つのものと、1時間半授業が2つのものがある。

3-3. 語学力について

授業によって、留学生用のものと、現地学生しかいないものがあり、後者においてはやはり議論の際などに学生の英語が早いためついていくのが大変だった。しかし授業をこなすにつれて、なんとかついていけるようになった。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館は自習スペースが充実しており、試験期間などは多くの学生が自習をしていた。また大学施設はメインキャンパスを中心にメルボルン市内に点在していた。イベントスペースやバスケットボールコートなども充実していた。

3-5. その他

メインキャンパスに学生相談室のようなものがあり、常に相談のために学生が集っていた。保険会社も常年在しているため、私もワクチンのことなど相談できた。

4. 生活面

4-1. 住居について

RMITの名がついた学生寮であったが、管理しているのは大学ではなく特に普通の学生寮と代わりはなかった。一方で月あたりの家賃が10万円ほどであり、周辺の一般住居の値段と比べても高かったため、現地についてから選択したほうが良いだろう。部屋は2人でシェアしており、キッチン、バスルームは共用だった。

4-2. 食生活について

昼食は外食が中心だった。大学周りに、比較的価格が抑えられたレストランがたくさんあった。しかし、平均として1000円前後の価格帯だったので、日本と比べると価格は高い。夜は、スーパーで食品を購入して、自炊をしていた。外食は、調理が面倒なときと、友人と食事を取るときであった。夜の価格帯は安くても1,500円前後であった。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

寮でのインターネットは月に50ギガバイトという制限があったので、大学のWifiを使うように心がけていた。しかし、現在では使用容量無制限になったようである。携帯電話に関しては自前のSimフリー携帯にチップを買って使用していた。格安スマホ会社のSimを使用していたので、値段は日本の格安スマホ会社と同じような価格帯であった。

4-4. 服装について

基本的に日本から持っていった服を着ていた。しかし予想以上に寒暖の差が激しかったので、コートや半ズボンなどを追加で購入した。

4-5. 健康管理について

天候が急激に変わるので、服装で調節して風邪などを引かないように気をつけた。しかし一度も重大な病気になることはなかったのが良かった。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

OSSMAを利用することは一度もなかった。また国内の保険会社を利用することもなかった。一方大学強制加入のOSHCは広い分野をカバーしていた。ワクチンの料金も補填された。その他には、保険の利用はなかった。

4-7. 課外活動について

ジャパクラブに参加した。そこで親しい友人が出来たので、参加して良かったと思う。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

メルボルンは留学生が多いため、留学生用のイベントが沢山あり、メルボルン周辺の日旅行や言語交流などのイベントに参加した。

4-9. 日本から持参してよかったもの

カメラ。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

タコ焼き機: 電圧が違うため使用不可能であった。電子辞書: スマホで十分であった。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

多様なバックグラウンドを持つ人々がメルボルンで生活しているため、一つの習慣があるとは言えない。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

【オーストラリア国内旅&インドネシア、シンガポール、マレーシア】2018年12月(3週間)、約15万

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

友人と食事、外食。地域イベントへの参加。

5. その他

5-1. 留学先大学について

RMITは世界中から、とても多くの留学生を受け入れているため、留学生のためのサポートシステムや経験豊富なスタッフが充実していた。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

授業によっては開講が中止されることがあるため、少し多めに授業を取った方がよい。その他に、メルボルンは留学生が多いためイベントが沢山ある。

5-3. 留学を終えて

留学前は、初の国外の長期滞在で不安だったが、大学のサポート、現地でできた友人のサポートによって大きなトラブルもなく留学を終えることができた。また語学力に関しても、人前で英語を話すことに抵抗があった留学前と比べると、留学後の人前で物おしなくなり成長したなど感じる。また現在でも仲の良い友人とは連絡を取っており、良い留学であったと思う。